



# 留学したい! I wanna study abroad!

## Ｑ＆Ａ

「留学してみたい! そんな思いを抱いたことはありませんか?」  
「様々なプログラムが実施される春休みや交換留学の1次募集が始まりが近づく「いま」、知っておきたい

留学情報をまるっとご紹介。さらに国際高等教育院の河合淳子教授のインタビューも掲載。「留学に向けて何をしたらいいのか分からない!」「不安なことが多すぎる!」という方、そして「留学してみたいけど情報を集めるのが面倒!」という方の一助になれば幸いです。

「気になったことがあったら『海外留学の手引き2022』を読んでみるか、国際教育交流課をはじめとした各窓口で相談に行ってみては?

※今回は学部留学を中心に内容を掲載します。(ふーぶ)

**Q**

留学に行くならどれくらいの語学力が必要なの?  
(※英語についてのみ)

**A**

プログラムや留学先によって様々です。それぞれ出願の条件としてTOEFL iBTやIELTSが課されることも多いので、まずは各種試験にトライして自分の能力を知ることが大切かもしれません。1回生で受けるTOEFL ITPの点数も1つの参考になることでしょう。

**Q**

留学前に京都で英語や日本語を使いながら留学生と交流できる機会やプログラムはないの?

**A**

留学生ラウンジ「きずな」のイベントやネット上の言語交換掲示板の活用、後述のSJCやKCJSによって開講される講義、またはKCJSや京大によって開かれる留学生との交流プログラムなど様々な機会があります。これらに参加してみてもいいかもしれません。

**Q**

交換留学や各種プログラム、イベントの募集についての情報はどこから集めればいいのか?

**A**

KULASISの共通掲示板で「分類選択」から「留学」を選択すると最新のプログラムや奨学金の情報が入手可能で、国際教育交流課の公式LINEでも同様の情報が得られます! 国際教育交流課に相談に行ったり、現地の大学のホームページや資料を読むのも有効です。

**Q**

「誰かに相談して考えたい!」という時はどこに相談に行けばいいの?

**A**

疑問や不安が湧いてきたら、国際教育交流課の留学相談室、交換留学については「海外留学の手引き」記載の各学部の教員の方などに連絡を取るのも有効です。各国や各地域が主催する留学フェアで留学経験者の話を聞くと更に具体的なイメージを描けるでしょう。

## 1. 短期留学

京大から提供されるプログラムに参加する留学形態。交換留学に比べ期間は短いものの、語学留学などに比して費用も抑えられる上に春休みや夏休みを最大限活用して海外経験をいただけます。また春休みに実施される東南アジアや東アジア各国の大学でのスプリングスクールは「多文化教養演習：見・聞・知」としてキャリア群の単位として認定される（東南アジア3カ国の分に関しては文学部の専門科目としても認定可能）ほか、渡航を伴うILASセミナーも単位として認定されるのが大きなメリットです！

## 2. 語学留学

各国の語学学校や現地の大学のプログラムに直接申し込むスタイル。短期留学よりは費用が嵩むものの、行き先の選択肢がはるかに広がるほか、期間も思いのまま！ プログラムの自由度次第ではより現地を見て回る時間ができるので「留学もしたいけどしっかり観光もしたい！」という方にはおすすめ。京大経由で申し込めるものや、京大生協（キャリア&トラベルセンター）経由で申し込めるものもあり、ルネにいくつかパンフレットが置いてあるのでチェックしてみてください。



留学情報、これ一冊！

### 海外留学の手引き

京大の留学情報がまとまった冊子。毎年更新されて京大のホームページに掲載されるほか、協定校のパンフレットなどと一緒に教育推進・学生支援部棟の入口近くのラックで配られているので最新版は要チェックです！

## 3. 交換留学

京大の大学間学生交流協定、もしくは部局間学生交流協定を結んでいる計30カ国以上、約150の大学の中から1校を選んで1学期以上1年以内留学をするというもの。休学する必要も無く、現地の大学で取得した単位が京大の単位として認められる場合もあり、学費も京大に納めておけば現地で納める必要はありません。私費留学よりは費用が抑えられるほか、私費留学と同じく奨学金を活用することで更に費用を抑えることができます！

ただし出発の前の年の内に実施される学内応募（2月から始まる1次募集、7月から始まる2次募集）に申し込む必要があるほか、それまでに語学の試験を受けたり、推薦書を用意する必要があるなど他の留学形態に比して更に前の時期から十分な準備が求められることには注意しましょう。

## 4. 一般私費留学ほか

一般私費留学は卒業後や休学中に現地の大学に入学する方法。こちらに交換留学よりは経済的負担が大きいものの、行き先の選択肢ははるかに広がります。また課題となる費用も様々な団体から提供される奨学金を活用することで一定程度抑えられます。更に卒業後に行くと交換留学と違って期間の上限が全く無くなるので、交換留学以上に専門的な勉強や研究をするのには向いている方法と言えるでしょう。

そのほかインターンシップで職務経験を積みながら、もしくは青年海外協力隊などのボランティアで社会貢献をしながら語学力を身につけるといった手法もあります。これらを斡旋している団体やこれら以外の留学形態についても「海外留学の手引き」に複数掲載されているので是非参考にしてみてください。

## 迫る！ 交換留学1次募集

2024年1月～12月出発分の交換留学の1次募集が2月末から開始されます！ 今からTOEFLなどの語学試験に申し込んでもまだ間に合うかも？！ 指導教員（もしくは担任）の推薦書を貰うのもお忘れなく。

必要な書類などの詳細については、京大のホームページの「教育・学生支援」>「海外留学を希望する京大生へ」>「京大の留学プログラム」>「交換留学」>「交換留学の流れ」>「学内応募について」のページで確認して下さい。学部によって書類の提出期限が変わってくるので、各学部のホームページを確認するか、もしくは教務掛に問い合わせしてみてください。

## SJC/KCJS

SJC（スタンフォード日本センター）とKCJS（京都アメリカ大学コンソーシアム）はそれぞれアメリカの大学が京都で開講する講義に米国大学生と参加するプログラムです。どちらも英語で実施され、日本にまつわる内容になっています。

今度の4月～6月に実施されるSJCの講義は1月中旬に募集がかかる予定で、次のKCJSの講義は9月～12月に開講され、これは6月中旬から募集が始まる予定になっています。

英語の勉強になることは勿論、留学の取っ掛かりとして活用したり、米国の大学生と交流しながら日本について改めて考えたりできる良い機会です。留学に興味がない方も一度参加してみる価値はあるはず！

はみだし  
すてーじ

夕方になると最寄り駅のバス停にある木々に雀のような小鳥がたむろしていて騒がしくはあるが風情らしきものがあるなと思った。

(葉・3 臆病な白起)

⇒お昼に鴨川デルタに行くとトンビがたむろしていて騒がしい弁当が不安だなと思った。

(橋の下なら割と安全；編)

## 河合 淳子 教授

〈経歴〉京都大学教育学研究科修士課程修了後、博士後期課程を学修認定退学、カリフォルニア大学バークレイ校で教育学のPh.D.を取得。

現在は留学相談の担当をされている河合先生に留学について伺いました。



——学部留学、ひいては留学の価値や魅力は何だと思われますか？

まずは留学一般でやはり一番いいと思うのは、**人に会うこと**ですよ。留学の準備を進める中でも、留学を思い立たなかったら会うことのなかった人たちに会えます。勿論留学先で会う人たちが財産になりますしね。私の経験からすると留学の価値というのはそういったところです。

私は実は学部留学をしていなくて、大学院留学をしました。大学院の留学って言うと、やっぱり研究しに行く、つまりは専門家になるためのトレーニングという色合いが強くなるんです。けど、学部留学というもう少し若いステージで行くと、専門にそんなにとらわれない中で色々な人や価値観に出会うことができるので、それは魅力じゃないかなと思っています。

——院の留学よりは肩肘張らずに「試しに行ってみる」という感じでしょうか。

そうですね。学部留学だと色々な学部の人と関われるし、やっばりできるだけ若い時に行くのがいいんじゃないかな。私が留学して帰ってきた時に、とある偉い先生が「留学したの。いいね」って。偉い先生なので「私が出会う海外の人って言ったら偉い人ばかり。だからそういう人達と学生時代、何者でもない頃に出会うっていうのはもう本当にかげがえがないんじゃないか」っておっしゃっている、それはそうだなって思いますね。

——留学の行き先はどう考えたらいいんでしょうか？

いま東アジアとか東南アジアへ短期で京大生を送るプログラムを担当しています。英語圏は人気なので、何か言わなくても京大生は行くので、そこは置いておいて(笑) やっぱ隣人なんだけど、意外と行かないようなところに行ってもらおうということです。短期で行けば、その次半年から1年の交換留学を選ぶ人もいますし、結果としてそこに大学院留学に行くような人も増えてきているので、その取っ掛かりになったらな、ということをやっています。行ったらみんなすごい変わってきますし、それらのプログラムは向こうの国のトップレベルの学生と出会って話ができる、というので大事にしています。だからやっぱり学部時代はそんなに狭く考えないでやったらいいと思います。**まず外へ出てみる**っていうのが一番ですね。その先にはもちろん、自分の興味もありますし、それからさっきの短期留学のプログラムだと「将来は大学院で海外に行きたいけどその前に」っていう人もいるし、「将来は欧米に行くつもりだけど、その前にアジアに」っていうような人もいます。そんな感じで学部時代は選んだらいいんじゃないかな。大学院になってくると、自分の専門の中でやりたいことが深められる大学を選ぶんですよ。というので、私はアメリカの大学のいいプログラムを持っているところを選びました。

——留学の際に言語面の不安はありましたか？

私は高校時代に1年間、留学プログラムでアメリカに行っていたんですけど、それでも不安はあるはありました。1年間しか行ってないですし、高校時代の話ですからね。だからちゃんとアカデミックな世界で話ができるかっていうとそうじゃない、というのは分かっていたので、それは不安でした。そしてやっぱり不安の通り、何もできなかったですね(笑) ディスカッションがとんでもなく大変で、全然ついていけなかった。けど、毎回何か一言ぐらいはしゃべろうっていう感じですね。そして、毎回読まないといけない量がすごい多いんですよ。それを読んでそれについてディスカッションするという感じですよ。それで、みんな結構食べながらディナーセッションみたいな感じで、ピザを食べながら議論したりするんですけど、食べながら聞きながら読んだことを思い出して、そして話すっていうのは、もう至難の業で(笑) そこに「食べる」が入るかって思いましたね。

——大学院の留学にあたってどれくらい勉強されましたか？

TOEFLは割り切っている程度勉強はしました。で、大学院に行くためには英語のネイティブの人も受けるGREっていう試験を受ける必要があって、これがめちゃめちゃ難しいんですよ。GREは半分も取れへんかったんやない

かなと思います。だから何で選考を通ったのか分からない。運も結構関係するのかな。留学っていうのは。運とか縁とか、何かそういうものを信じますね。1校だけに引っかかってパークレイ校へっていう。これもすごい「出会い」だと思うんですね。未来のスーパーバイザーからメールがやっと来て「来ないか？」みたいなことが書いてあったんですけど、本当にむっちゃ嬉しかったですね。

留学って行ってからの方が大変な感じがしますが、行く前も結構大変です。ただ、その過程で留学経験のある人の話を聞いたり、色々留学支援してくれる人の話を聞いたりとかですね。そういうので、やっぱりそういう「出会い」はすごく大事だなって感じがしますね。

——現地でも苦勞されたことは何ですか？

やっぱりもう大量に書かないといけないのでしんどかったですね。読んでレポートを書いて、ディスカッションを踏まえてレポートを書いてみたいなことだったんで。でも周りの現地の学生はちゃんとやってるんですよ。そこに追いつこうとして頑張ってる。それで、本当に真剣に勉強する。そういう人たちと一緒に勉強できるっていうのはやっぱりすごい財産です。それで、オンとオフが結構しっかりしてて、15週間（1学期）は体に悪いほど頑張ってる。長期休みみたいなオフの時はオフ。留学生の身分からすると追いつかないといけないので、休みも勉強するんですけど。

感心するのは、留学先の教授たちは学期の間は教育を最優先してくれているんですね。研究者としても一流の先生方なんですけど、学期中は教育最優先で学生の話聞いてくれますし、学生が出したレポートも2週間ぐらいで返してくれますので、その辺の教育に対する情熱と態度は自分が教員になってから、すごいことなんだなっていうのがわかるようになりましたね。

——現地ではどのようなところにお住まいでしたか？

インターナショナルハウスというところに住んでいて、その生活も面白かったですね。600人住んでいてそのうち

300人が留学生で300人が現地の学生なんです。大学院生は1人1部屋もらえるんですけど、もうベッドと机があるだけで。それで、食堂が1つあって、そこでいろんな人と会おうっていうのも楽しかったですね。みんなよく喋るんですね。あんまり見たことない人でもそこで知り合いになるみたいな。食事に行ったら誰かに会って「しまう」ので（笑）勉強しないといけない時とかはちょっと柱の陰で食べたりするんですけど。それでも喋りに来るみたいな。そんな私はそんな喋りまくる感じでもないんですけど。それでも「どうしてんの？」ってトレーを持って寄ってくるんですよ。でも本当にみんなよく勉強しますし、その知り合いも財産に感じますね。

——コロナ禍で増えているオンライン留学のプログラムについてはどのように感じていますか？

オンラインでも結構いろんなことができるっていうことは発見でしたね。他の先生方と一緒に京都サマープログラムっていうのを実施していて、海外の学生を50人ぐらい受け入れて。で、京大生も参加できるようにして、2週間ぐらい一緒に勉強するっていうプログラムをしてるんですね。コロナ禍では3回オンラインでやって、参加してくれた京大生がかなり頑張ってくれたっていうこともあるんですけど、非常に質の高い教育ができたと思ってますし、交流もものすごく進んで良かったと思います。オンラインでまず知り合って、「今度何か対面で会おうね」みたいな感じになって、会いに行ったりしてるみたいですね。まだ色々できるなという感じですね。だから色々面白い講義のラインナップを用意してるんです。講義はオンラインであってもできるかなという感じですね。

ちょっとできないなっていうのは、フィールドトリップですね。オンラインでも工夫して色々やるんですけど、そこに行くっていうのを超えることはやっぱりできないんですね。ただ、そのほかほとんどのことはできる、というのが私自身の実感です。皆さんちょっとオンライン疲れとなってる、あんまりずっとオンラインが続くのは嬉しくないかもしれませんが、うまく使えば海外の学生とも仲良くなれるんです。

——最後に京大生にメッセージをお願いします。

短期の東アジアと東南アジアのプログラムをこの2月3月でやろうとしてます。6つあるんですけど、4つが対面、2つがオンラインの予定です（2022年11月末日時点）。コロナ明けの現地に行く初めてのプログラムで、我々の方も本当に慎重に、できるだけ準備をして実施しようとしています。というところで必ずワクチンを3回打ってもらうようお願いしています。色々な事情でワクチンを受けられない人がいるっていうのは、本当にわかっているんですが、危機管理の面では重要なので、それを今回の応募資格にしています。向こうの病院とか、色々な態勢を整えて送り出そうとしているところなので、皆さんの方でも考えていただいて、それでも不安だったらもうちょっと様子を見て、今回の様子を見てから参加するとかですね。とにかくやっぱり私としては留学は勧めたいな。人生で一回は経験してほしいなっていうものなので、それを安全にできるようにこちらも考えています。でも留学は、やっぱり自分の責任において考えてもらう必要があります。

このプログラム以外にも色々な機会があるので。結構知らなかったっていう人が多いんですよ。「こんなええプログラムあんの知らなかったわ」みたいな。でも気づいたときに行動するのが最短なので。そこからでも全然遅くないし、思いついたら行動を起こしてもらいたいです。私は留学相談の担当としてHPに連絡先も載せているので、気楽に話をしに来てもらったらいいと思っています。そこからスタートしてもらって、経験者の人とかいろんな人を紹介するので、それで実現してくれたら嬉しいですね。

——本日はお忙しい中ありがとうございます。

